

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400050		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎 (ユニットえびす)		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎905番地32		
自己評価作成日	令和 2年 9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 2年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・イベント事を大切にしている 特に入居者様の誕生日はお一人お一人当日にお祝いをしている ・入居者様が笑顔で過ごされる時間を大切にしている ・看取り介護を受け入れている ご家族様の思いに寄り添い、悔いのない看取りができる様ご希望を聞き込んでいます
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、湯煙たなびく湯の町にあり、海岸側の居室からは、素晴らしい景観を楽しむことができる。入居者の入浴は源泉風呂となっている。入居者は、日中、リビングに集まった際は、皆でレクリエーションを行ったり、調理器具を使った食材の準備を手伝っている。職員は、入居者の排泄に関する支援について本人の状態に応じて対応を検討し、生活する力が低下しないよう配慮する等、見守りの姿勢を重視した支援に努めていることが窺える。一方で、終末期を迎えた入居者に関しては、本人・家族の要望に応え、希望があれば協力医療機関等と連携し、看取りケアに積極的に取り組んでいる。新型コロナ禍において、今までと同じような支援が働き難くなっていることは間違いないが、職員皆で知恵を出し合い、工夫を凝らすことで、入居者本位の支援、そして生き生きとした職員の働く姿に繋げている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に座学等により理念の説明は行っているが、職員への周知は難しく、毎日の申し送りや月に一度のミーティングの際に説明を行い、実践に繋がっていきたい	理念はいつでも確認できる場所に掲示している。理念の中で特に入居者自身の積み重ねられた人生の「継続」がキーワードとなっており、全職員でその意義を共有している。その上で昨今、取り組んだ「人生年表」作成は、より理念に基づいた本人本位の支援に繋がっていくことが期待できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントやお祭には見物へお連れし、事業所の餅つき大会では他事業所及び地域の方々との交流を持っているが、今一度地域の方にグループホームを理解していただける様、ホームでのイベント開催も考えている	事業所は、自治会に加入しており、夏祭り、敬老会等の行事参加の他、職員が地域活動に参加し関係構築に努めている。入居者は、地域住民と顔見知りになっており、挨拶を交わす関係である。事業所の餅つきには近隣の参加がある。新型コロナ禍の今年は、いろいろな催しが中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生や障害者の職場体験を通して、事業所の内容について説明をしているが、電話相談や入居見学に来られた場合、特定の職員しか対応できない為、職員への教育も行っていく		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて入居者様の状況、イベントの内容等を報告し、運営推進会議の内容については、ミーティング等にて職員へ説明を行い、理解しサービスの向上に努めている	会議は偶数月に開催し、構成メンバー要件を満たしている。内容は、入居者の近況や行事報告のほか、参加メンバーからの質問・意見・助言があり、議事録から確認できる。看取り支援対応等の質問に対し、方針を明確に表明している。新型コロナ禍においては書面決議の対応がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	個人の必要な申請や手続き相談に、ご家族様に代わって行政窓口に向いたり、ホームにて疑問が生じた場合、各行政の担当者へ相談を行い、意見の交換を行っている。入居者様に初めて要支援①の介護認定がおりた時は、手続き（取下申請）の相談にのっていただいたり、助言をいただいたりお世話になった	市の介護保険課や地域包括支援センターの担当者とは、必要に応じて情報交換や連絡を取っている。具体的には、入退所時、介護認定やその更新時、それ以外のさまざまな対応等に、質問や相談ができる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングにて身体拘束の研修会を行い、職員への周知徹底を行い、内容を理解した上で、ケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きをもとに勉強会を行い、拘束のないケアを実施している。職員は外部研修に参加し、受講内容を職員会議で報告、共有している。特に入居者への言葉遣いについては配慮をもって行っており、職員間で指摘し合うこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、情報や知識を身に付け、ミーティングや研修報告にて発表し、他職員にも再認識してもらい、ケアの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の理解は薄く、対象の入居者様はいらっしゃるも、本質的なものについては一部の職員しか理解していない為、研修会に参加する必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は、ある程度時間をかけて説明を行っている。その後契約書はもちろん、重要事項説明書を改定する場合も、説明を添えて送付すると共に、ご来設時に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来設された際、職員の方からご要望等ないかお尋ねし、ご家族様からの意見や要望を伺い、適切な返答を行う様努めているが、運営に関する意見は出にくい傾向にある	苦情相談体制については契約時に説明を行うと共に、意見箱を玄関口に設置している。家族の事業所訪問時や電話の際に、要望等を聞き出し、ケアの部分が主となっている。入居者の近況については、事業所は家族に向けて定期的に便りや写真を送付し関係づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングにて意見交換の場を設けているが、意見を出しにくい職員については、リーダー職若しくは管理者が個人的に意見を聞き話し合った上で施設長へ報告を行い、一番の改善策を考えより良い職場環境作りに努めている	ミーティングや月1回の全体会議、日々の申し送りなど、職員の意見を抽出、情報交換する機会が設けている。また、管理者は日常的に職員の話聞く機会を出来るだけ多く作り、希望の有給休暇取得やシフト調整、現場における必要備品等の購入に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人手不足により勤務体制については厳しい状態ではあるが、管理者が一人一人の勤務状態を把握し、施設長と相談の上、やりがいのある職場作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所としては、資格取得、講習会参加についてはサポートしているが、職員の資格取得に関する意識が低い為、職員が関心持てる様リーダー・管理者が職員の育成に取り組む必要がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島・雲仙市のグループホーム連絡協議会主催の研修会等への参加が主であるも、人手が充足していないここ数年は、一定の職員しか参加できていない為、パート職員にも関心を持ってもらい参加を促していく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に頂いた情報を理解した上で、入居後にはその情報だけでなく、本当にできること、やりたいことを確認し、職員で共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、ご家族様からの要望を確認し、アレルギー等も確認するためのアンケートを記入していただいている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用していたサービスが、入居後は利用できなくなることもあることを、ご家族様へ説明し、ご本人様にも納得していただける事を前提にご入居いただいている必要があればリハビリ通院へお連れしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の希望・要望があれば、対応できる様にしたいと思っている 難しい時には説明し、又対応できる時の約束をして、納得いただけることがある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度近況報告にて入居者様の生活や気になったことを、ご家族様へ報告と相談をさせていただいている 事故や怪我、体調不良の際には、電話にて対応させていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出先で知人の方と入居者様がお会いになった際には、お話しされる時間を大切にしている	生活歴は、フェイスシートや入居前の施設から情報を得ている。昨今、本人や家族、関係者の話をもとに「人生年表」を作成し、新たな気づきを得ている。事業所の行事に家族を招待し、一緒に過ごす時間を作っている。職員は、入居者が希望する墓参りや自宅への帰宅など、馴染みの場所へ出掛けることを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方ばかりではない為、問題が起きる前に職員が間に入ることで、未然に防げる様にしている 食事の席を変更するなどし、今は孤立されている入居者様はいないと考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が亡くなられた際には、葬儀へ参列させていただいている。居室の片づけは職員も手伝わさせていただくこともある。入居者様が手作りの精霊船を作られるが、ご家族様も『作りました』と手作り船を持参されたので、一緒に流した様子をハガキでお知らせした		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰りたいとの言葉があった際には、理由がある場合傾聴させていただくことで安心へ変化する事がある。したいこと、食べたいもの、等の希望があった際には、出来る限り対応できる様努めている	職員は、入居者に優しく声掛けし、日々、寄り添う姿勢をもって、意向を汲み取っている。入居者の事業所における日常の過ごし方は、本人本位となるように個別対応している。表出困難な入居者には、表情や仕草を観察し、汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際には、ご家族様とご本人様から話を伺うことができている。生活している間に、昔の話や好物、好きな歌などをご本人様から教えてくださることがある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の中で横になる時間が必要な方、見たいテレビ番組があるなど、ご本人様の希望に応じて。ご自宅での生活に近い形で生活していただくことが理想でもあるが、難しいことでもあるので、近づける様に努力をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングを行い、話し合いの下介護計画を作成している。入居者様の調理作業への参加が減っている為再度全職員で共有し対応していきたい	介護計画は本人・家族の意見や要望を取り入れ、長期目標を立てている。短期の目標期間は設定せず、毎月の会議で現状報告や意見を出し合い、3、4ヶ月毎に更新、見直しを行っている。ケアマネージャーを中心に職員が計画・モニタリングに深く関わっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌にて、気になったこと・発言などを記入している。特変等あった際には、ホーム日誌へ記入し、申し送りにて情報を共有できる様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅について発言があった際には、他の方も一緒になり同調することがある。その際には、お一人お一人にしっかり説明させていただいている。又入居者様のお気持ちに向き合える様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日用品の購入の際は、一緒に買い物にお連れしている 病院受診やリハビリの通院、歯科の往診や居宅療養管理指導を受けていただいている方などおられる 訪問美容では、カット・シャンプー・カラーなど、お一人お一人の希望に対応してもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠方から入居された場合は、近くの病院で大丈夫か確認をとり、転院していただいている かかりつけ医のみならず、他科受診が必要となった場合は、ご家族様へ相談し、都度受診対応している	定期的な内科往診や必要時の歯科往診があり、他診療科通院の時は職員が受診支援を行っている。現在は、家族付き添いの受診はなく、職員の通院支援の場合は受診内容を申し送りノートに記入して共有している。主治医、協力医との連携体制は整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師来設時、一週間の入居者様の状態をきちんと報告している 訪問看護記録を読み、何か変化あれば観察をきちんと行い、電話等で相談したりしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは出来る限り訪問し、病院より情報を得る様にしている 又出来る限り早めに退院できるように医療機関と相談する様にし、入退院はスムーズにできている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変した場合の後をどうするか、ご家族様へアンケート方式で記入していただいている まだ考えられないご家族様については、来設時に話を伺う様にし、最期まで自分らしく希望に副い、過ごしていただける様にしている	看取りに関する指針等を作成しており、契約時に本人・家族に説明し「看取り介護についての同意書」を得ている。実際に直面した際には家族は改めて「看取り介護に関する意向確認書」を提出している。連携医療機関や医師、訪問看護と協力しながら、積極的に看取りケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時は都度対応し、その時勤務している職員には、指導も行っておりマニュアルも作成しているが、全ての事に対応できる迄には至っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災の避難訓練は定期的に行っている 自然災害に関し、資料はあるが全職員が理解しているとは言えない 災害用の水や入居者様の情報カードは準備できている	マニュアルを作成し、年2回利用者を含め避難・消火訓練等を行っている。事業所が入る建物内に飲食店があるため、地域住民の協力も必要と考えている。水や食料の備蓄は整っている。ただし、火災以外の災害対策は必要と考えているが、全職員への周知となると不十分である。	地域住民との連携が取れるように継続的な働きかけが求められると共に、火災以外の災害に対する対策について、職員の理解、周知を図ることができるよう取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オムツ交換やトイレ誘導した際等は、他の入居者様の目に入らない様ドアはしっかり閉めたりしているが、入居者様に排泄があったか等、他入居者様に聞こえているかもしれないのに、職員間で話していたので気をつけます	声掛けの強弱や高低、タイミングに注意を払い、利用者の人格を尊重した言葉遣いに努めている。トイレ誘導など、入居者の羞恥心に配慮し支援している。写真使用など個人情報取扱いの同意書がある。職員には内部研修の実施による周知や守秘義務に関する誓約書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の際等の着替えを、ご自身で選べない入居者様に対して、初めから尋ねる事無く洋服を決めていた 今後2着用意し、どちらがいいかお尋ねしようと思います		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様に合わせて起きていただいていると思いますが、入居者様がその日何をしたいのか尋ねた事がないので、尋ねる様にし、入居者様が楽しい一日だったと思える様にしたいです		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気候に合っていない洋服を着られている場合、声掛けを行う様にしているが、女性入居者様が多いのもう少しお一人お一人鏡の前で整容できる時間を作り、支援したいと思います		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全入居者様がもう少し食べる事を楽しみと思える様に、入居者様と一緒に作れる手作りおやつの日などを増やしたいです	メニューには入居者の希望や旬の食材を取り入れたり、配食サービスを利用することもある。アレルギー食やきざみ食に対応し、行事食を提供することもある。入居者様が包丁を使った下準備や後片付けを手伝い、食事は職員と入居者が同じテーブルを囲み会話をしながら楽しんでいる様子が窺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事をなかなか食べられない入居者様に対して、食べやすい様工夫しているつもりではいるが、それでも食べられない入居者様に対して、どの様な物が好きでどの様な物が食べ易いか考えようと思います		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアのフォローは行っているが、嫌がられる入居者様に対する声掛け方法をもっと考え、試していきたいと思います		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ利用の方には、時間を決めて、又時折要望であろう発声がある時に、オムツ交換をしている 誘導・見守り・介助が必要な方には、時間をみて声掛けをしたり、要望あればその都度トイレ誘導を行っている 『トイレ』と言葉で伝えられない方には、表情や言動に気を配っている	排泄チェック表を作成し、状況をチェックしている。パターンを見て声掛けを行い、仕草を見てトイレ誘導を行っている。自立した入居者の場合は過干渉にならないよう見守っている。本人の状態に応じて、日中のパッド類の使用や支援方法を検討し、まずは現状を維持し、生活する力が下がらないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には水分を多めに摂取していただいたり、適度な運動をしていただく等、便が出やすい様配慮している お一人お一人の最終排便からの日数により、必要に応じて服薬管理もしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を確認したり、その日の体調に注意をしたり、ご本人様から希望あれば入浴できる様にしているが、出来ない事があるので入浴の間が開かない様にしていきたいと思う	週2回を目安に入浴を支援している。入浴日以外は清拭を行っている。温泉は維持が大変であるが、入居者の満足感が高い。異性介助には十分に配慮し対応している。以前は職員不足で入浴回数は減少気味傾向だったが、昼間時間帯にパート職員を配置し対応する等、改善に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠していただける様に、作業等手伝っていただいたりして昼夜のメリハリをつける様にしている 又夜勤の際は、昼間の状況を把握し対応する様にしている 又不安な気持ちになられている方には、傾聴し安心して就寝できる様にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された定時薬や、新しく追加された薬、変更になった薬など、全て受診録に記入し、職員同士の報告を行っている 入居者様の体調や状態を見ながら主治医と相談し、お一人お一人に合った服薬支援に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きだった方には調理の下処理や献立作成、洗濯物たたみなどを行っていただいたり、歌う事が好きだった方にはレクリエーションでカラオケを楽しんでいただいたりして、日々入居者様が楽しく笑顔で過ごしていただける様努力している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	パッドや衣料品等の日用品購入のご希望があれば、職員と一緒にでかけ、お好きな物を選んでいただくなど、ご本人様の希望が叶えられる様職員同士連携をとり、支援に努めている	その日の天候や入居者の体調、希望に合わせて、外出支援を行なっている。本来であれば、ドライブや買い物その他、地区の風船バレー大会への参加を車椅子使用の入居者を含め支援している。今年は新型コロナ感染予防のため近隣の散歩中心となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様での管理は困難な方が多く、ほぼホームにて管理させていただいている。ご本人様より買い物希望あればお連れし、レジの方にお金を渡す等、できる事はさせていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様より誕生日プレゼント、お中元、お歳暮など届いた時は、電話で話していただいたり、手紙を書いていただく様にしている。それも困難になった方は、届いた品物を誰からか説明し、一緒に開封、写真を撮ってお礼状と共に送る様にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには入居者様全員で作ったものを飾ったり、エアコンも快適に過ごしていただける温度にしているが、お一人お一人体温温度や快適温度が違うので、上着等で調整している	玄関やリビングには、季節感ある飾りつけや入居者が作った作品を展示している。リビングにはソファやテーブルを配置し、テレビを見たり書き物をしたり、入居者一人ひとりが居心地よく、寛いでいる様子が窺える。共用の場は、職員が掃除を行い、室温・換気・加湿調整を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は居室で過ごされる方は少なく、ほぼリビングで過ごされている。入居者様が出来る限り快適に過ごしていただける様、席の移動をしたり、ソファを設置しゆっくり過ごしていただける様努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居したばかりの方は、ご家族様の写真を飾ったり、ご自宅が使われていたものを置いたり、と、“私の部屋”だと思っただけの様工夫している。入居間もなく落ち着かれない方がおられ、入居前のケアマネージャーにご自宅の間取りを聞き近づける様にした事もあった	利用者の家庭からの慣れ親しんだ物品等の持込は自由である。テレビや仏壇、時計、観葉植物等が確認でき、個性豊かな居室もある。日中はリビングに集まっている場合が多いが、居室で自分の時間を過ごす入居者もいる。職員が適時換気し、室内を清掃し清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口にご本人様に書いていただいた名前を貼ったり、トイレには大きく表示している。居室の移動があった方には、慣れるまで都度説明行った。ホーム内の作業も、その日の体調等を考慮し、お願いしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400050		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎 (ユニットほてい)		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎905番地32		
自己評価作成日	令和 2年 9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 2年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・初詣やお花見、敬老の日には敬老会、年末には餅つき大会、その他にもお彼岸やお盆には入居者様皆様と共に饅頭作りなど、季節に合ったイベントを定期的に行うことで、入居者様に今の季節を感じていただけるようにしている</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時にホームの理念の説明、確認は行うものの、以降は定期的な再確認の時間を設けていない為、確実な共有に繋がっていない 月1回のミーティング時に確認の時間を設けてみてはどうか		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回のイベントである餅つき大会では、近隣の皆様との交流を持てている 日常的な交流としては、裏通りに面したホームの玄関通路をホームの畑や花壇に見立て、プランターで野菜や花を作っては楽しまれている入居者様が、階下のお店の方やお客様、又ご近所の方々と交流され、できた野菜を配られたりしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の会合や葬儀の手伝いに行った際など、ホームの近隣の方より、軽度の認知症を発症されたというご家族様の相談を受ける事があり、当ホームで行っている対応方法などを伝授したり、精神的に軽くなる様な言葉かけを心がけたりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度実施し、結果については参加されていないご家族様皆様に郵送行い、周知に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との定期的な連携は特にはないが、個人の必要な申請や手続き相談に、ご家族様に代わって行政窓口に出向いたり、生活保護を受給されている方に面談に来られた際は、対応の支援行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ行い、ベッドの離床センサー等は入居者様の安全面を考え、ご家族様の了承の下設置している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については以前より定期的に職員が研修に参加し、参加していない職員への報告を行っていたが、現在は新型コロナウイルス感染拡大により、研修会開催自体がなく、ミーティング時に時折啓発の為の事業所内研修を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護事業を利用している入居者様もおられるが、その制度について熟知している職員はいない。その概要等がある程度理解できる位の説明をする時間を設ける必要があると思われる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、入居前より施設長より説明を行い、改訂時にもその都度説明を行っているが、施設長に一任している為、職員は契約内容を余り把握していない		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議及び匿名のアンケートによりご家族様から意見を出していただける場を設けている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務に関しては、毎日の申し送りやミーティングの際に意見が出せるものの、勤務体制や給与面について、職員から意見を出せる機会はなく、職員個人から代表に意見を出しにくい雰囲気になっている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の人員不足により、現在超過勤務にて業務が回っている状態であり、体力的にも厳しいものとなっている。出来る限り正常な勤務体制に近づけてほしい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所としては、資格取得、講習会参加についてはサポートしているが、職員の資格取得に関する意識が低い為、職員が関心持てる様リーダー・管理者が職員の育成に取り組む必要がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり外部との交流は持っていないが、通常であればホームのイベントに招待し合ったり、町内グループホーム間スタッフの交流、雲仙市や島原半島のグループホーム協議会主催の研修会等にて交流の機会に参加したりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時又は入居後などに、ご家族様から、又可能であればご本人様に、以前の生活スタイルなどをお聞きし、安心の確保に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様やご本人様が困っている事があればお聞きし、不安の解消に努め、要望等に対応できる体制作りもしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多くの方がご本人様の希望ではないものの、入居していただいたからには、最善を尽くして、納得していただける支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を共にし、ホーム内での作業と一緒にし、レクリエーションや買い物外出など行動を共に行うことで、関係の構築に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事実面会に来られないご家族様もおられるが、近況報告にて日々の様子をお知らせしたり、何かにつけ面会していただける様に、機会を作ったりしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所などあればお連れしたり、来設されたご友人などあれば、今後も来設していただける様な雰囲気作りに努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方がいれば一緒になって作業していただいたり、目や耳が悪い方がいれば、職員が間に入り、勘違いのない良い関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	できれば退去先への訪問や、年賀状など送らせていただいている 退去後など、お礼のお手紙などいただいた事もあり、感動し励みになった事もあった		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在『帰りたい』と希望されお連れできていない事が殆どである 家の確認をしたいという程度であればお連れしたいし、それ以上の事であればご家族様との相談も必要であるが、職員の傾聴のみで留まっている事が殆どである		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様との会話の中で、バックグラウンドの把握に努めているが、その後の対応は十分とは言えないかもしれない		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居されてから、個人日誌などに一日の流れを記入し、生活習慣の把握に努め、入居以前と変わらない習慣に近づける様努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングにて意見などを出し合っている 入院・退院後など、何か変化があれば、その時その時で再評価を行い、現状に即した計画作りに努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事の摂取量・排便・バイタル(血圧・脈拍・体温)など、ご本人様の状態を個人日誌に記録し、情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様より何かしらの希望があれば、可能な限り希望に副った対応を行っているが、『帰りたい』という要望時は、傾聴のみでその場を治めているのが現実である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	会話の中に生活されていた地域名が出てきた時は、上手く引き出し、その地域がどんな場所なのか調べたりし、会話で思い出していただける様にしている お一人お一人に必要な今現在の地域資源はよくわかっていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様が安心していただける様、ご家族様とかかりつけ医との間で橋渡し役となり、連絡体制を築いている ご入居前からのかかりつけ医の継続、入退院後の受診支援、かかりつけ医への再移行等、連携している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問していただいている看護師へ、お一人お一人の小さな変化も伝え、又分からない事や助言欲しい事など相談し、連携に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はもちろん、入院先病院との情報交換を行い、退院に向けての連携もなるべく早い段階で始め、情報は職員一同にて共有する様にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様との話し合いを行い、職員一人一人がご家族様のご意向を理解し、職員間で何度でも話し合いを重ね、又その内容をご家族様へ伝え、入居者様が長く、楽しく過ごせる様に、ご支援行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に対して、初期対応が分からない場合は、他職員に協力してもらい、又その都度一人でも対応できる様、自ら意識して身に付ける様に努力している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練は年2回行っているが、火災以外の自然災害に対する避難訓練も行っていく必要がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際に声掛けを行い、入居者様が嫌な思いをされる事のない様、心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で、ご本人様の選択よりも、職員の都合や思い込みで動いている事も多いかもしれない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、入居者様お一人お一人の生活のリズムを把握し、ペースに合わせた生活ができる様に努めているが、職員が少なく移動の希望に即応できない時もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は定期的に行っている 季節に合った服装をしていただき、起床された際は洗顔後不完全であれば仕上げの手伝いをさせていただき、常に清潔が保持できる様心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・下膳・食器洗いにはできるだけご参加いただき、食事中にも説明を行いながら、食事を摂っていただいている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食がある方には、職員が声かけや介助にて食事していただくが、健康状態や栄養状態が十分か確認しつつ、不足していると判断すれば、食事の他に高カロリー食品を提供する等し、健康や栄養を損なわない様努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアをしっかりといただける様フォローし、歯科の居宅療養管理指導を受け、歯科医や歯科衛生士から受けた注意点を職員が理解し、口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人に合わせ、パッドやオムツを使用できていると思います 言葉で伝えることができない入居者様に対しては、もっと気にかけていきたい		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況は、職員の間で情報共有できているが、散歩など身体を動かすことが余りできていない		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望に対して、できるだけ副える様になっているが、できない時は、清拭・足浴にて対応している 嫌がられる入居者様に対しては、声かけや時間を工夫している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様によって入床時間を変え、眠気ない様であれば、眠くなるまでリビングにて職員と一緒に過ごしていただく 又、入居者様の必要に応じて睡眠導入剤等の服用も主治医へ相談し、実施している 朝の起床時間もお一人お一人に合わせ、すっきりとした目覚めを促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定時薬は配置場所が決められている 追加になった薬などは、申し送りなどで職員同士で確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事をお願いしたりしているが、男性入居者様に対して、もう少し趣味などを探る事が必要である		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望や、必要な物があつた場合、入居者様と一緒に買い物へ行く事ができている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	不安な発言あった場合は、ホームにて預かっている事を説明しており、外出時レジにて支払いできる入居者様には、支払いまでしていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればできるだけ電話をかける様にしており、手紙を書ける入居者様には、ご家族様へ手紙を書いていた		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには時間によって陽の光を入れたり、季節に合わせて飾り付けをしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いており、ゆっくりと休んでいただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真や色紙などを飾っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に名前を書いており、他の入居者様の居室へ行こうとされる入居者様に対しては、それを見ていただき、説明をしている		